

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 51-136838
(43)Date of publication of application : 26.11.1976

(51)Int.CI. A61K 7/00

(21)Application number : 50-059126 (71)Applicant : NISHIURA SEINOSUKE
(22)Date of filing : 16.05.1975 (72)Inventor : NISHIURA SEINOSUKE

(54) PEELING TYPE PACL

(57)Abstract:

PURPOSE: A safety pack which can take off a horny layer and the dirt laid in pores of the skin by strong adhesion, activated the cuticle and the true skin, and has completely no side-effect.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

公開特許公報



特 許 願

昭和 50 年 5 月 16 日

特許庁長官 楠 真 英 錄

1. 発明の名称

ピーリング式美肌材

2. 発明者

特許出願人と同じ

3. 特許出願人

大阪府柏原市上市1丁目8番35号
西清清之助

4. 代理人

大阪市東区横堀4丁目33番地 加地ビル
(5957)弁理士 中島信一
(ほか1名)

⑯ 特開昭 51-136838

⑬ 公開日 昭51.(1976)11.26

⑯ 特願昭 50-59126

⑯ 出願日 昭50.(1975)5.16

審査請求 有 (全3頁)

庁内整理番号

6865 46

⑯ 日本分類

31 B0

⑯ Int.CI²

A61K 7/00



明細書

1. 発明の名称

ピーリング式美肌材

2. 特許請求の範囲

水溶性高分子樹脂の水溶液中に、可塑剤、油脂及び乳化剤を添加混合した粘液体から成るピーリング式美肌材。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、所謂ピーリング法（消しゴムで字を消すような手段）によつて、顔は勿論のこと、全身欲する部分の皮膚を、淨化し若返らせる美肌材の一改良であつて、その目的とするところは、強い粘着力によつて、皮膚面に新陳代謝として生ずる角質層並びに毛穴内の溜垢を完全に近く除去して、表皮及び真皮を活性化し、美肌効果が優秀で、而も皮膚に悪影響を与えるよう

な副作用の全くない安全な美肌材を提供しようとするものである。

本発明美肌材は、水溶性高分子樹脂の水溶液を基剤とし、これに可塑剤、油脂及び乳化剤を添加混合した粘液体から成るもので、実施例としての材料の配合例並に混合方法は、以下のとおりである。

配合例

ポリビニールアルコール(P.V.A)	1.000
ソルビット(可塑剤)	9.00
ビタミン B ₆	0.03
ビタミン D	0.02
ビタミン E	1.00
オリーブ油	1.00
ラノリン(乳化剤)	1.00
デヒドロ酢酸ソーダ	0.40

法定色素

0.0003

香 料

0.15

精製水

77.40

前記配合資料中、ビタミンA、D、Eは、何れも皮膚に栄養剤として吸収されるものであり、デヒドロ酢酸ソーダは、防腐剤としての役割を果すものであり、色素及び香料は化粧料としての色及び香りを付与するためのものである。

配合方法

最初精製水を沸騰させた中に、ポリビニールアルコールを投入してポリビニールアルコールの水溶液を作り、その中に前記ソルビット以下の全資料を投入して振拌し、冷却させることによつて、粘液体の完成品が得られる。

本発明美肌材は、初めに述べたように、ビ-

特開昭51-136838(2)

リンク法によつて使用するもので、石けん洗いなどで予め清潔にした皮膚面に、これの適量を塗布した後、指先又は掌でその塗布面を、始めは弱く、次第に強めに擦る。すると体温や自然蒸発によつて塗布料中の水分が減少して、次第に半乾燥状態に變つてゆき、これに伴つて塗布料は次第にその粘度を増大するので、更に擦撗を続けると、恰かも紙面を擦つた消しゴムの擦り屑のようなボロボロの巻屑片ができる。かくして皮膚面の残留垢は勿論のこと、皮膚の新陳代謝によつて自然発生する皮膚表面の角質層や毛穴の中の宿垢までがが、その巻屑片中に捲込まれて除去され、生き生きと若返つた新生肌面となるのである。こうした新生肌面に対しては、洗浄並に保護化粧料の塗布等の事後措置が必要であることは、いうまでもないが、それは

本発明の要旨外である。)

本発明美肌材は、本来強力な粘着性を有する水溶性高分子樹脂を基材とし、これの水溶液を液体の状態において皮膚に塗布するので、毛穴、角質層等皮膚の深部への渗透が良好であり、それが、塗布に引続いて行う指先や掌による擦撗の続行と共に、次第に水分を減少して漸次的に半乾燥状態に移行するその過程を経つて行う強い擦撗によつて、毛穴内の宿垢や角質層を擦り屑片中に捲込みながら剥離除去することとなるので、毛穴内の宿垢及び角質層の除去が完全に近く行われ、全然汚れのない生き生きとした若肌が得られる。この場合混入された可溶剤は基材たる水溶性高分子樹脂の水溶状態を永く持続する上に役立ち、また油脂分と乳化剤とは、この美肌材に潤滑性を与えて擦込効果を助長する。

効果がある。

出願人 西浦清之助

代理人 中島信一
(ほか1名)

5. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|----|
| (1) 願書副本 | 1通 |
| (2) 明細書 | 1通 |
| (3) 図面 | 1通 |
| (4) 委任状 | 1通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1通 |

6. 前記以外の代理人

大阪市東区横堀4丁目33番地 加地ビル

(6820) 弁理士 中島純一